



物見多末薩院に仕へなる臣下也叔
 も方大臣の消息女藝上れ此世のけ
 以外は口座し程に貴僧高僧を法し
 中うれ大法祖法醫療を極くれは事
 むくつを文よ具志る一なり一室一
 了後日のけ子とてくわる記ありは
 此上平のいよ一して生靈死灵れり

おぼろ人さくもつゝの巻 大方の推

量中てい 咄つす寸名と所ふわらひ
^ここれ安寝電をれ ころいよハ恨意
人もなく 悲しむへ 寺すもあらず
みりつ 叔うらに せりつ ち 今
梓の弓のき かに びしきて 顕れ 出 ころ
とらじつ ねるさると おぼりめ寸 思ひ

云々の河息所れ 悉くさり づれせよ
カ一 けりへ せむ上の花のえしき
玄朔の河をよる 仙洞れもみり 遠
秋の夜ハ月よたりふ 迷色香にそ
ちれやの ちり身る 終を ねと 海へ
ぬき度 極ハ日 影まの まの ち ち
きり けり とる 知 我に おう ち 野 色 の

をいんらろしにみる一報に
志しぬのほむら身とこり
思ふ志すやあはれ恨り
乃て海や意うりて人の恨
まの深くしやうにまをけふ
まふまをけふ世は海まを水く
炎煙急れほむらあつるまを
下三二五

とらちしにさしむるの
あつる身とあつる業を
こ清もせ及たれこけり
まよつたぬらぬあつる昔
よるぬま及る海もあつる
其面影も恥しや枕に
車赤れをくわいふまを
下三二五

相がちか夢の上れはあのけいあ
双鉢子口相い程に横川此小聖と法
一々事りい九識の窓乃前十業れ
床のほりりに瑞依の法水とたへ
三密れ月を澄む所す業内やこ
と及びつね者そ多この言ハ別行の
子細あはす何すへて露出をゆとも

大信ふらの法杖や作程一やうく
糸糸ふさるに人位今の法出に
太極ふさる早飛い扱病人多何々に
口相いそあれさ糸大床子口在作
こころはねくか持早中さよしるさる
畏てい行早去ハか持よ糸しそ没
のいふのあて強けさ胎合支部れ撃

七寶乃瘡とす〜以〜降致

不降をへたつ如丑唇の袈裟赤木の

教珠のり〜た〜を〜と〜押

色上〜と〜い〜の〜れ

曇漢三受陀結日羅教上〜行去子

〜り終へぬらてぬ〜志終ふを

たとひり〜行者の

法力〜と〜重く教珠を〜志

もきて上東本上降三世明王上南方軍

荼利夜叉上西方大威徳の王上北方

金剛上夜叉明王上中央大座不動

明王曇漢三受陀結日羅教施陀摩訶

嚕意那安婆多那時多羅吒干箱聴我

訖者地大智惠上知前心者即身成仏

